

トルクメン通信 第9号

2017年10月15日 作成

Salam! (トルクメン語で「こんにちは」という意味です。) トルクメニスタンでの生活も3年目に突入しました。最初は2年のつもりで来て、途中で1年で帰ることになりそうでしたが、様々なご縁のおかげで無事(?) 3年目を迎えることができました。「もう2年も経つのか」というのが実感です。1年目・2年目に比べると、仕事面でも精神面でも余裕が出てくるようになりました。これまでいろいろと忙しかったので、残り一年のトルクメニスタン生活は心穏やかに過ごすことが目標です(笑)。

今年度も授業開始・・・???

トルクメニスタンでは9月から新学期が始まります。新学期が始まると、夏季休暇中は静かだった大学に活気が戻り、僕も「さあ、始まったぞ!」という気持ちになるのですが、今年は様子が違いました。なぜなら、今年はトルクメニスタンで「第5回アジア室内競技・格闘技大会(以下、アジアダ)」が開催されたからです。

日本ではあまりなじみのない大会かもしれませんが、トルクメニスタンではこのような比較的大きな規模の国際大会が開催されるのは初めてであり、それこそ「国を挙げて」という表現がぴったりくるくらい準備に力を入れていました。アシガバット市内には「アジアダまであと何日何時間何分何秒(何秒!?)」というカウントダウンの表示がそこら中にありまして、国営放送でもカウントダウンの表示がテレビ画面の下に常に映されていました。記憶が確かならば、500日前くらいからカウントダウンが始まっていたのではないかと思います。1年前、300日前、100日前など、節目になると「アジアダ〇日前記念イベント」が各地で開催されていたようです。アシガバットだけでなく、アハル、バルカン、ダショグズ、レバプ、マリの各州のイベントの様子が国営放送で放映されていた記憶があります(余談ですが、現在僕のアパートではテレビが見られなくなってしまい、トルクメニスタンの国営放送が懐かしいです・・・国営放送もいろいろと面白いので、また機会を改めてお伝えします)。もちろん聖火リレーもあり、トルクメニスタンらしく馬で全土を移動していました。会場となるオリンピック競技場の建設はもちろん、アシガバット市内の道路や施設はすべて整備されきれいになりました。きれいになるのはいいのですが、工事が何の予告もなく始まるので、バスやタクシーが突然、進路変更します。まあ、このようなことはトルクメニスタンでは日常茶飯事なのであまり驚かなくなりましたが(笑)。アジアダの歌、アジアダのダンス(体操?)なども創られたようです。

アジアダ開催が近づくにつれ、徐々に準備に拍車がかかるというか、トルクメニスタンの本領が発揮されるというか、とりあえず「そんなことする?」と思うようなことがだんだん多くなっていきました。一番驚いたのが、自家用車の運転禁止です。僕が実際に体験したのはアジアダ1か月前の日だけでしたが、何回かあったようです。基本トルクメニスタンでは白タクを使うのですが、全く車が走っておらず移動に困りました。そういう日に限って遠くに用事があったりするんですよね…。アザディの先生に「先



生！今日車が走ってないんですけどどうしてですか！？」と電話で聞くと、アジアダ1か月前なので車などを使わずに体を動かす日になったとおっしゃっていました。つまり、歩けてことです。すごいなトルクメニスタン…。その日はバスで移動したのですが、いつもは車が行き交う市内は車が全く走っておらず、逆に新鮮な光景でした。スーパーやデパートでもアジアダ関連グッズが売られるようになったり、普通の商品にも「アジアダシール」が貼られるようになったり、スーパーのレジ袋もアジアダの公式マークが入っていたりと、どこもかしこもアジアダでした。開催1か月前くらいから国内の風紀を正すために酒類の販売が禁止されるようになり、市内の交通規制、競技場周辺の立入制限も始まりました。競技場の近くに行きつけのデパートがあったのですが、交通規制などの関係でかなり遠回りをして行かなければならず大変でした。トルクメン人は夏休みになると「アワザ」というカスピ海沿いのリゾート地によく行くのですが、今年はアジアダの選手団に開放するため、トルクメン人はアワザへの立入禁止のお達しまで出たそうです。



さて、前置きが長くなりましたが、この「アジアダ」と大学に何の関係があるかということ、国を挙げてのイベントですので当然学生もその準備や運営のボランティアに駆り出されます。なので、9月中は大学がほぼ休講状態でした。学生はどんなことをしたかということ、選手団の案内や通訳、競技会場の誘導、競技会場内のセキュリティのサポート、会場の「サクラ」などだそうです。中には日本人選手団の案内をした学生もあり、「日本語で話すことができ楽しかった」「ボランティアがいい、大学に行きたくない」とまでいう学生までいました。ただ、日本人に会った学生の中には「日本人に日本語で話しかけても無視された」「日本語で話しているのに英語で返された」という学生もあり、とくに後者に関しては「私たちはどうして日本語で話しているのに日本人は英語で話すのか、とても不思議だった」「私たちの日本語はよくないのか」と強く感じたそうです。まあ、日本人にもいろいろいるってことですね…。ただ、「日本語で話しかけているのに英語（もしくは他の外国語）で話す日本人」については僕も学生と同意見です。日本国内でも同様の声を聞きました。彼らの日本語がたどたどしい、自分の日本語が通じるか不安、などといった理由があるかもしれませんが、彼らもある程度の日本語ならわかるかもという前提で日本語で話しかけていると思いますし、状況から発話内容を推測することもできるので、是非外国人から日本語で話しかけられたときは、日本語で対応してほしいなと思いました。

僕にとっては授業もできないし、お酒も買えないし、交通規制もされるし、「早く終わってほしいなあ」なんて正直思ったのですが、学生にとっては色々な経験ができた大会だったようです。「さあアジアダも終わったから授業開始！」と思ったら、今度は独立記念日の準備で学生がいなくなりました…。いつからちゃんとした授業ができるようになるのかなあと思いながら過ごしています。



2年生の様子

今学期は3年生と5年生の授業を担当し、1年生と2年生の授業は現地の先生とTTで行っています。ただ、10月上旬は2年生を担当しているN先生が体調を崩してしまい、その間は代講をしました。



2年生は入学時からN先生がずっと担当されてきたのですが、僕はあまり授業に入ったことがないので、ちゃんと授業をするのは初めてです。学生数は全部で14名（男子学生は1名）です。女子学生が多いのでとても落ち着いたクラスで、しかもみんな日本語が上手！やさしい日本語を使ってはいますが、僕が話す日本語は大体聞き取ることができますし、日本語でのやり取りもあまり問題ありませんでした。N

先生に聞くと、日本語だけで話す時間を設けているようで、トルクメン語を使ったら罰金（と言っても少額で、学用品のお金に充てているそうです）になってしまうんだそうです。こんな優秀なクラスはトルクメニスタンに来て初めてです（笑）。でも、指名した以外の人答えてしまうとか、僕が質問すると全員が違うことを一斉に話し始めるとか、一人ひとり発言しないとかなどというのを見ると、やっぱりトルクメン人なんだなとちょっと安心しました（笑）。

授業の中で日本文化についてあまり触れることがなかったということなので、書道体験・お箸体験をしました。書道もお箸も初めてだったので、学生は興味津々。「筆」とか「半紙」の道具類はもちろん、（上手じゃないですが）僕が筆で書くところや箸を使っているところを興味深く見ていました。書道では、まず「日本」と書いてみて、そのあとは好きな言葉や漢字を書いてみるように言いました。「東京」「娘」「家族」「愛」など、漢字の教科書やスマートフォンなどで調べながら書いている姿が印象的で、漢字の勉強にもなったかなと思います。唯一の男子学生は「車」「馬」と書いており、トルクメン男子だと思いました（現地の先生曰く、トルクメン男性の99%は車が好きなんだそうです）。中には「私は山田」と書く学生も。どうしてそれを書いたか聞いてみたいです（笑）。



お箸の体験では、ひまわりの種（トルクメニスタンではひまわりの種を炒ったものを器用に食べている光景をよく見かけます）を1分間でどれだけつかめるかとか、30個のひまわりの種を誰が一番早くつかめるかなどのゲームをしながらお箸を使う練習をしました。1分間で60個以上という学生もいれば、2個しか取れなかったという学生も。なかなか種をつかめなかった学生が、やっとつかめたときに「先生！」と誇らしそうに知らせてくれ、みんなで拍手するなど、クラスの仲の良さが垣間見えました。一番面白かったのが、「先生、箸で『ゴミ』をもちますか？」という質問。突拍子もない質問に思わず「え？」と聞き返してしまったのですが、質問した学生も「先生、なんでわかんないの？」と困惑気味。他のクラスメイトを交えてよくよく聞いてみると、「先生、箸で『コメ』をもちますか？」と質問したかったようです。クラスメイトから「ゴミ」と「コメ」の

質問は「先生、箸で『ゴミ』をもちますか？」という質問。突拍子もない質問に思わず「え？」と聞き返してしまったのですが、質問した学生も「先生、なんでわかんないの？」と困惑気味。他のクラスメイトを交えてよくよく聞いてみると、「先生、箸で『コメ』をもちますか？」と質問したかったようです。クラスメイトから「ゴミ」と「コメ」の

意味を説明されると、「先生、すみません！」と顔を真っ赤にしていました。「ゴミ」と「コメ」、まあまあわからない間違いではないから大丈夫です（笑）。と、僕にとって2年生の授業はとても充実した時間でした。これからも授業をするのが楽しみです！次の週にはN先生も無事復帰され安心しました。

新学期早々アジアダがあり、いろいろ心の準備はしていましたが、やはり出鼻をくじかれた感は拭えません（笑）。しかし、これもトルクメニスタン。「あと一年は心穏やかに」という目標をしっかりと心に留めて、残り一年を大事に過ごしていきたいです。

- 【写真1 ページ目】 アジアダの公式マーク
(トルクメニスタンのシンボルである馬「アハルテケ」がモチーフ)
公式マスコットキャラクター (トルクメニスタン原産のアラバイ犬)
いずれもアジアダ公式 HP (<https://ashgabat2017.com/>) より
ご興味のある方はぜひ HP をご覧ください。
- 【写真2 ページ目】 アジアダの公式マークが入ったレジ袋
会場内の様子 (観客席にいるのは学生だと思われます)
- 【写真3 ページ目】 2年生の授業の様子

国際交流基金日本語指導助手 (トルクメニスタン派遣) 上原龍彦
ご意見、ご感想は azady.uehara★gmail.com まで (★を@に変えてください)